

# D wing

VOL. 30

ディー・ウイング

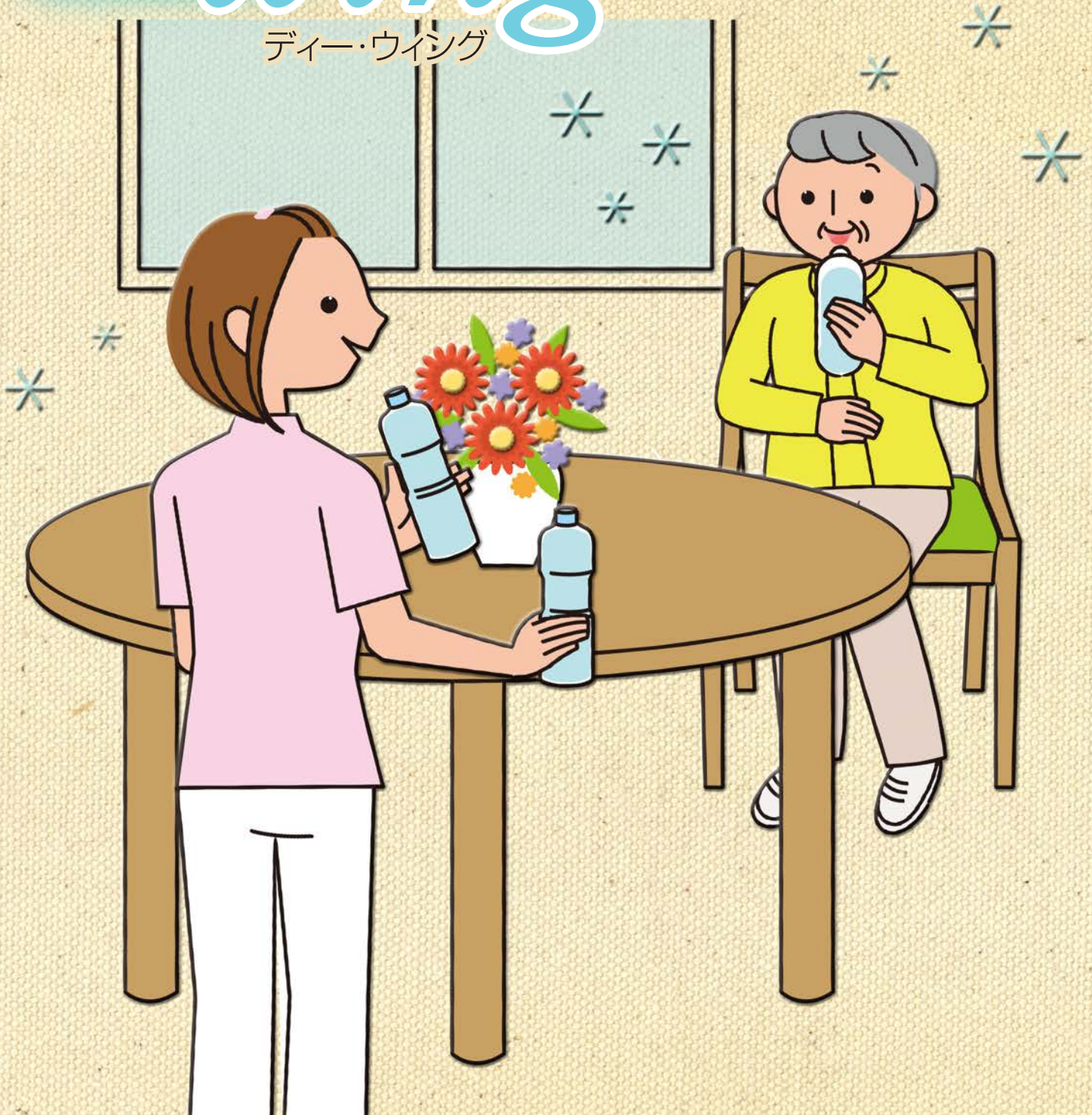
この人に聞く!  
第13回 お仕事の **ヒント**

欲しい人材を  
獲得するためのポイント

第28回 *Care Point*

介護者が知っておきたい

**高齢者の  
熱中症対策**



# 欲しい人材を獲得するためのポイント

介護人材の不足が深刻化し、欲しい人材がなかなか集まらない悩みを抱えている事業所は少なくないだろう。かつて事業所の存続が危ぶまれるほどの人材難に直面したことを契機に、欲しい人材を確実に獲得するためのプロジェクトを開始した特別養護老人ホーム エーデル土山(滋賀県甲賀市)。今では地域一番の「働きたい介護施設」になっています。プロジェクトを主導してきた副施設長・事務局長の廣岡隆之さんに、欲しい人材を獲得する工夫とポイントについてお話をうかがいました。

## 人材確保のためのプロジェクトチームが始動

▼職員満足度を高める視点で人材確保のためのプロジェクトチームを作るまではどんな状況だったのですか

当施設は1999年開設の65床の特養で、開設当初は介護保険制度の施行とともに人材はどんどん集まりました。ユニットケアの増設後は、さらに大量に採用しましたが、採用後の新人教育はありませんでした。また、利用者さんに寄り添うサービスを120%の力で提供することを良しとする職場風土があり、サービス残業などの労働トラブルや燃え尽きて離職する職員が後を絶ちませんでした。当然のことですが、職員が心身ともに健康でなければ、利用者さんに満足してもらえないサービスは提供できません。人材不足が顕著になったのは10年前です。採用しては辞める、の繰り返しで、そのうち募集しても人が来なくなり、このままでは事業の存続が難しいという危機的な状況に陥りました。

▼そこで人材確保のためにプロジェクトチームを発足させたのですか

はい、今から4〜5年前のことです。職員の満足度が高い職場であれば人材は集まってくるはずなので、職員の満足度を高める方法を考えました。そして、やっている取り組みを外部に積極的に発信していくために「イメージ戦略室」というプロジェクトチームを作りました。

▼ブランドイメージを明確にするイメージ戦略室はどのような活動をしたのですか

ブランドイメージ作りから取りかかれました。とかく介護業界には「暗い」「古い」「汚い」というイメージが付きます。が、働き手が職場に求めているのは、その真逆の「楽しい」「新しい」「クリーン」であり、名実ともに変わることが必要だと考えました。そこで「楽しい」「新しい」「クリーン」をキーワードにブランドイメージを統一し介護業界は働きたい人へ選ば

## 介護業界の枠にとらわれず、強みを特化して独自性をアピール

▼経費と時間をかけない何をどう変えたのですか

最初に法人のロゴマークを変えました。法人の顔とも言えるロゴマークを変更するのは勇気がいりますが、新しさをイメージしたデザインに変更しました。広報誌やパンフレットをはじめ、名刺や郵便に使う封筒に至るまで、新しいロゴ



エーデル土山のWEBサイト <http://www.edeltutyama.net> (参照2016-8-4)

れるに十分な魅力的な職場であること。をアピールする方針を立てました。

▼イメージ戦略室のメンバーは?

パソコンに強い職員、デザインに強い職員を3名選びました。広報誌やホームページなど外部に発信するメディアをすべて見直して、ブランドイメージを統一するためです。メンバーには業務執行手当を支給し報酬に見合う責任を持たせましたが、業務時間外に活動することはなく、月1回の会議のほかは日常業務の中で時間を作って進めてもらいました。

▼ホームページの一新には高額な経費がかかったのでは?

メンバーが作っているので余計な経費はかかっていません。ただ、きれいな写真を撮って掲載したいと思い、中古で一眼レフカメラは買ったのですが、この効果は絶大でした。ホームページに載せる写真や情報もリニューアルしました。外部の人の目に触れるものは事業所のイメージアップに直結するので、広報誌やホームページはデザインも内容も一新しました。利用者便りと行事写真などが中心だったそれまでの広報誌にイメージ写真を挿入したり、コラムで「スタッフの労働環境改善への取り組み」などの情報を掲載して、人材確保にも役立つような内容に変えていきました。

▼他事業所との差別化を図る

ホームページのリニューアルにあたって、どんな点を工夫しましたか  
ホームページはサービスを利用しようと思うご家族ばかりでなく、仕事を探している人、また地域の同業者や関連の事業者など不特定多数の人が閲覧するので、いかに他の事業所と差別化するかという点にポイントをおきました。きれいな写真を載せるという見せ方だけでなく、内容面でも出せる情報はすべて出すという姿勢に徹しました。その一つが待遇の見える化です。基本給のほか夜勤手当、資格手当、賞与、待機手当、扶養手当など具体的な手当名と金額を明記し、待遇のよさをアピールしました。また、財務諸表も開

## MESSAGE



廣岡隆之さんからのメッセージ  
廣岡隆之さん  
社会福祉法人あいの土山福祉会  
特別養護老人ホーム エーデル土山  
副施設長・事務局長

### 獲得した人材の定着に力を入れることが、人材確保のポイントです

- かつて採用しては辞めるといった事態が続いた時期があり、いかに採用した人材を辞めさせないことが重要かを痛感しました。風呂の栓と同じで、せっかくお湯を入れても、栓が開いていればお湯は溜まりません。風呂の栓をしっかりと締めるということは、獲得した人材が辞めないように働きやすい環境を用意すること。給与や待遇が安定していることはもちろん、残業がない、連続休暇が取れるなど、ワークライフバランスにも配慮して、長く働ける職場環境を作っていくことが、実はとても大事です。
- 「ファミリーワークシステム」という制度を設けて、職員の家族にも働いてもらっています。自分が良い職場だと思わなければ家族を紹介しないでしょうから、この制度で採用した人は辞めずに定着しています。職種はいろいろですが、現在、5組の夫婦がいますし、親子で働いている人もいます。職員旅行も一緒ですから、何かと好都合のようです。
- 働きやすい環境を作っていくためには、日々の業務を見直して、業務のムダをなくし、効率化を図っていく継続した取り組みが必要です。当施設では残業ゼロを実現するために、さまざまな業務改善を行ってきました。たとえば、連絡はメールを使う、会議は始まりも終わりも時間厳守する、記録の書式を簡略化する、介護記録の記載方法をルール化するなど、職員からの改善提案によって業務の効率化を進めてきました。
- 現在も業務改善に全職員で取り組んでいます。毎月、改善案を5つ提出するというノルマを課していますが、これは日々の業務にムダがないかどうかの意識を常に持ち続けることが目的です。こうした努力が働きやすい環境を作り、結果的に欲しい人材の獲得と定着につながるのだと思います。

示して経営の透明性を確保し、「THE EエーデルWAY」という法人理念や法人行動宣言も掲載しています。介護業界でここまで情報開示している事業所は少ないので、この点もストロングポイントになっていると思います。

▼反響はありましたか

はい。すぐに大きな反響がありました。利用者さんやご家族、また同業者からも「変わったね」「良くなったね」と声をかけられました。正直なところ内部には「何でそこまで変えるんだ」と反発する者もいましたが、外部から高い評価を得るようになると、誰も何も言わなくなりました。逆に、職員は外

部の目を意識するようになって、これだけアピールするからには緊張感を持つて動かなくてはいけないというモチベーションを持つようになり、好循環のサイクルができてきました。

▼欲しい人材のターゲットを絞り、強みを特化して発信

▼欲しい人材を獲得するために、独自に行っていることはありますか

どういう人材が欲しいのか、ポイントをはっきり示すことです。有資格者が欲しいのか、経験者が欲しいのか、若い人が欲しいのか。当施設では未経験でも有資格者に育成するノウハウ

がある中で、「長く働ける人」という条件を明示し、真面目にコツコツと努力できる人材を求めています。

▼欲しい人材から選ばれるにはどのようなPRをすれば効果的ですか

自施設の強みを特化して伝えることが肝心です。たとえば、人材定着率が地域ナンバー、残業がない、チームワークが良好などの強みを、広報誌やホームページで具体的にわかりやすいフレーズでアピールします。働きやすさをアピールしたいのなら、給与や待遇をはっきり示したほうが効果的です。

# 介護者が知っておきたい 高齢者の熱中症対策



【監修】  
暮らしの保健室 室長  
有限会社ケアーズ・  
白十字訪問看護ステーション  
代表取締役所長  
秋山 正子

夏になると毎年ニュースになる熱中症患者の救急搬送。熱中症は脱水が引き金となつて起こりますが、世間ではそのことがあまり知られていないようです。水分補給で熱中症を予防することができますし、症状が現れたら迅速で適切な対応が大切です。特に高齢者は自分で脱水症状に気付かずに、周囲の人の注意が欠かれません。リスクも高まりますので、周りの人の注意が欠かれません。「暮らしの保健室」で介護や健康の相談を受けている秋山正子さんに、高齢者の熱中症対策のポイントをうかがいました。

## 日常生活でも起こる熱中症

●熱中症ってどんな病気？  
体内には意外に水分が多くあり、成人では体重の約60%が水分です。排尿や排便、汗呼吸、皮膚からの蒸発などで水分は常に失われています。私たちが食べ物や飲み物から適宜水分を補う必要があり、水分が不足して脱水状態になると、水分とともに電解質（ナトリウムなど）が失われるため、体内の調整機能が働かなくなり、さまざまな症状が現れます。  
●どんなときに起こりやすいか  
やはり汗が多く出る夏に起こりやすくなります。気温が高い日

をはじめ、急激に暑くなった日や湿度が高い日、風が弱い日などに注意が必要です。残暑の時期も夏バテで食欲が落ちて体力が落ちてくるので、熱中症が起こりやすくなります。また熱中症は、炎天下だけではなく、実は室内でも起こります。買い物から帰った後や入浴後など、日常生活において、また睡眠中も、閉めきった室内やエアコンを使っていない室内で、脱水状態になつて熱中症が起こることがあります。

熱中症により救急搬送されたのは5554人で、65歳以上の高齢者は55.5%と半数を占めています。特に高齢者では重度の熱中症で死に至る危険があります。  
●高齢者は脱水が起きやすい  
高齢者は発汗による体温調節機能が十分に機能しにくいので、普段から熱中症予備群である「かくれ脱水」の状態と言えます。  
●1もともと体液の割合が少ない  
体内の水分は筋肉に多く含まれていますが、高齢者は筋肉量が減るため、水分量が減ります。やせて筋肉が少なく高齢者については、体重の変化に注意しましょう。  
●2飲んだり食ったりする量が減少  
●3喉の渇きを感じにくくなる



## 熱中症予防は「かくれ脱水」対策から

水分は食事からもとれますので、3食きちんととることが大切です。さらに高齢者では喉が渇いていなくてもこまめな水分補給も必要で、起床時、食事のとき、入浴の前後、就寝前など生活時間の節目に水分補給の習慣をつけ、介護側からも声をかけましょう。また、高齢者は夜間のトイレを控えたいために水分を控える傾向があり、脱水の原因となります。

水分補給の注意点は、心疾患や腎臓疾患などの持病で水分や塩分の摂取が制限されている場合で、医師の指示を仰ぎましょう。  
●脱水のサイン  
介護従事者は日頃から利用者さんの状態を把握し、脱水のサイン（左ページ）を見逃さないようにしましょう。軽い脱水であれば水分とミネラルの補給で対処できますが、場合によっては救急搬送も必要です。  
本人が脱水を意識していない「かくれ脱水」のわかりやすいサインは、まず体重の減少です。そのほかに原因不明の熱が続く、夜中に足がつる、立ち上がるときにふらふらしたり、話すときに口が重くなったりといった変化が見られたら「かくれ脱水」を疑うべきです。サインを見つけたら、軽度であつてもたたちに経口補水液を飲むように勧めましょう。  
脱水状態は静かに進行するものです。熱中症を発症する前に、早め早めの対処が肝心です。

## 熱中症対策のカギは脱水予防

### 熱中症予防のポイント



### 熱中症の症状と対処法

症状の重症度に合わせて対処しましょう。重症度は3段階に分類され、軽度であっても急に容態が悪化する場合があるので、回復するまで付き添う必要があります。



重症度	症状	対処法
重症度Ⅰ度 (軽度) 体重減少1~2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>大量に汗をかく</li> <li>めまい・立ちくらみがある</li> <li>手足がしびれる、筋肉のこむら返りがある</li> <li>気分が悪い、ぼーっとする</li> </ul>	涼しい場所に移動し、衣服を緩めて楽にする 塩分を含む水分をとり、体を冷やす 保冷剤や冷たいタオルで太い血管のある首筋や脇の下、足の付け根などを冷やす、体を湿らせて扇ぐ ※誰かがついて見守り、回復しなければ病院へ
重症度Ⅱ度 (中等度) 体重減少3~9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭ががらがらする(頭痛)</li> <li>吐き気がする・吐く</li> <li>ぐったりする(倦怠感・虚脱感)</li> <li>意識が何となくおかしい</li> </ul>	Ⅰ度の対処に加え、自力で水分がとれないなら、すぐに病院へ
重症度Ⅲ度 (重度) 体重減少10%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識がない</li> <li>体がひきつける(けいれん)</li> <li>呼びかけに対し返事がおかしい</li> <li>まっすぐに歩けない</li> <li>体が熱い</li> </ul>	すぐに救急車を呼ぶ ※救急車が到着するまでの間にⅠ度の対処をする

環境省「熱中症環境保健マニュアル2014」(一部改変) [http://www.wbgt.env.go.jp/heatstroke\\_manual.php](http://www.wbgt.env.go.jp/heatstroke_manual.php)(参照2016-7-26)

### 経口補水液の作り方

塩分と糖分を水にバランス良く溶かした飲料で、スポーツ飲料より糖分が控えめになっている

砂糖 20g  
塩 1.5g  
水 500ml

ペットボトルキャップ すりきり3杯  
アイスクリームの透明スプーン すりきり1杯 又は ティースプーン1/3杯

●体液の浸透圧に近いので、速やかに吸収され、脱水時には尿量が増えることはない  
●脱水状態になる前に予防的にとることが大切  
※経口補水液は作ったその日のうちに飲み切る

### 救急車を迷わず呼ぶ場合

- 意識がはっきりしない、声かけへの反応が少ない場合
- 水分をとろうとしても自力で飲めない場合
- 水分をとって休んでも症状が回復しない場合

### 高齢者の脱水のサインを見逃さない!

- 脱水のサイン
- 微熱が続いている
  - 体重が減少している  
※7日以内に4%を超える体重減少(40kgの人で1.6kg、50kgで2.0kg以上)
  - 握手すると手が冷たい
  - 親指の爪の先を押すと、赤みが戻るのに3秒以上かかる
  - 手の甲の皮膚をつまむと、富士山のような形が3秒以上戻らない
  - 脇の下が乾いている
  - 口の中が乾燥して、舌が乾いている
  - 皮膚をかゆがる
  - こむらがり起こる
  - 認知症の方が落ちつかず、そわそわしている



かくれ脱水 JOURNAL 高齢者の熱中症予防は、「かくれ脱水」対策から(一部改変) <http://www.kakuredassui.jp/step1>(参照2016-7-26)

### 高齢者で特に注意が必要な人

高血圧	降圧薬の中で尿の量を増やす働きを持つ種類は、脱水を起こしやすくなる。
糖尿病	高血糖のため尿の量が多くなり、水分不足になりがち。自律神経機能の低下によって発汗が不十分になりやすい。
認知症	暑さを訴えにくく、飲食をしたかどうかを忘れてしまうので、周囲の人の注意が必要。
便秘	下剤や浣腸などの薬を使っていると、便を出すために水分も失われる。
心疾患 腎臓病	水分制限がある場合、夏と冬では摂取できる水分量が異なる。病気の程度によっても塩分を摂ってよいかどうか異なるので、主治医に確認。

# D 2016年も各地で開催 ケアセミナー

既に開催したもの、これから開催予定のものをご紹介します。

## Dケアセミナー in 岡山

- 日時:7月26日(火) 13:00~
- 会場:マービーふれあいセンター
- 講演:「今日から始める自立支援」~自立支援介護の理論と基礎知識~  
講師:古川和稔様(聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 教授)  
「白十字製品を使用した事例発表」  
講師:門田晃様(株式会社ライフアシスト 専務取締役  
複合型介護施設あしすと、介護付有料老人ホーム えんじゅ王子)

## Dケアセミナー in 札幌

- 日時:9月8日(木) 13:00~
- 会場:札幌国際ビル 国際ホール
- 講演:「認知症の方への排泄ケア」~アセスメントからおむつのことまで  
講師:濱田さよ子様(高齢者生活研究所長/排泄用具の情報館「むつき庵」代表)

## Dケアセミナー in 新潟

- 日時:11月29日(火) 13:00~
- 会場:上越市市民プラザ 第一会議室
- 講演:「わかる!すぐできる!高齢者のスキンケア」  
~弱い弱い皮膚との上手なおつきあい~  
講師:林 智子様(新潟中央病院 看護部 皮膚・排泄認定看護師)

# D-CARE Report

Dケアセミナーの開催報告です。

介護の日

## Dケアセミナー

- 日時:11月11日(金) 12:45~
- 会場:白寿ホール
- 講演:「希望としての介護」  
前半:「老人ケア」~人体から人生へ~  
後半:「認知症ケア」~医学から人間学へ~  
講師:三好春樹様(生活とリハビリ研究所代表)



## 特別養護老人ホーム あかいの郷

### 地域に向けて 受賞事例を報告

自立支援介護に取り組んでいるあかいの郷さんは、自立支援介護学会において行った事例発表において合同学術大会会長賞を受賞されました。そしてこの度、その取り組みの成果をご利用者さんご家族、地域の皆様に向けて「日中おむつ0(ゼロ)・胃ろう0(ゼロ)達成報告会」として開催するということを知り、私たちもおじゃましてきました。当日はまず、国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授による基調講演がありました。あかいの郷さんが取り組んでいる自立支援介護とはどういったものなのか、トイレで排便することの意義や、それによって日中おむつを使う必要がなくなった方々の声など。数々の具体例に基づく自立支援介護がもたらす成果を話す竹内教授の講演に、皆ぐいぐいと引き込まれていました。竹内教授の講演に続いて、あかいの郷さんから3名のスタッフが取り組みの事例を発表されました。木島さんによる日中おむつゼロ、常食100%、歩行率100%を達成した施設全体での事例、山下さんからは胃ろう・おむつはなしを行った個別事例、そして藤本さんから入所と同時に



## 特別養護老人ホーム

### フランセーズ悠 なかの

#### 法人全体で 自立支援介護の取り組みを推進

長野駅から車で1時間ほど走った中野市にある、まるで日本旅館のような平屋建ての建物は、平成24年に開設した特別養護老人ホームフランセーズ悠なかのさん。施設の中に能舞台を設けるなど、唐澤施設長の言う「日常生活の場である施設のなかにも非日常な場を」というコンセプトが具現化された空間では、地域に開かれたイベントなどに使用されているそうです。



そんなフランセーズ悠なかのさんを始め、9つの施設からなる社会福祉法人博悠会さんでは、昨年より自立支援介護の取り組みを白十字に支援させていただいています。取材の翌日には、フランセーズ悠なかのさんに各施設から施設長・スタッフが一堂に会し、3回目となる研修が開かれました。

「博悠会では外部から講師を招いての研修を定期的に行っています。白十字さんには、自立支援介護について教えていただいています。各施設からは施設長、ケアマネジャー、現場スタッフ代表の各3名が参加しています」取材にご対応いただいた唐澤施設長ももちろん参加。初回は自立支援介護の概要から導入方法までをご説明。それから4ヶ月後に開催した2回目には、実践した事例を持ち寄って事例検討を行いました。

「研修を受けてまずインパクトが大きかったのは、水のお話でした。それで早速取り組みを始めました。ご本人の好きな飲み物を用意し、提供するための環境づくりにも取り組みました。水分の摂取量は確実に増えています」取り組みを始めることで、嚥下困難のある方や水分を摂りたがらない方への対応など、課題が明確になってきました。また、排泄委員会からの提案でラジオ体操を全館放送で流すようになるなど、現場発信で新しい動きが出ていることも収穫の一つだといいます。排泄についてはそれまでもトイレにお連れするケアを実践していたそうですが、トイレにお連れするための方法論に触れたことで、白十字のおしりピタリパンツを使い、日中はおむつを使わないケアへと切り替えを進めておられます。まだ取り組みを始めて半年。今後の成果に期待が高まります。



質疑応答では周辺のケアマネジャーや他施設勤務の方、赤井町に在住の方から多くの質問が飛び、熱量の高さを感じました。

面会者の多い施設を目指し、お一人ごとの写真アルバムを毎月更新しているそう。介護によって元気になっていく様子がアルバムに綴られていくことでしょう。

## CARE VIEW

### 「明るい介護福祉の未来を考える」ために情報発信 介護未来プロジェクト

静岡県浜松市にある保健医療福祉の総合大学、聖隷クリストファー大学の社会福祉学部介護福祉学科はWEBサイト「介護未来プロジェクト」を運営し、若い世代に広く介護職の魅力を発信し、注目されています。



「お知らせボード」  
誰でも参加できる公開セミナー

● **介護の未来を思い描けるコンテンツを意識**  
介護未来プロジェクトのWEBサイトでは、2年前から介護福祉に関わるさまざまな情報を発信しています。インタビュー記事やコラムなどの他、公開講座や福祉施設見学会などのお知らせボードなど、幅広いコンテンツを掲載しています。

「介護未来プロジェクト」WEBサイト  
<http://kaigomirai.jp/>  
(参照2016-8-3)



● **介護職に就いている人にも役立つ情報が満載**  
ナーや福祉施設見学会などのイベント情報などを告知しています。



聖隷クリストファー大学  
社会福祉学部 介護福祉学科長  
古川和稔 教授

古川教授は「いま特別養護老人ホームは、要介護3以上の重度者向けに機能をシフトしています。そこで、約5万人いる要介護1,2の利用者が自宅に帰るためにも、優秀な介護福祉職が専門性をもち、関わり、自立状態を取り戻すための「自立支援介護」が必要とされています。そのためにも介護福祉職の専門性をアピールし、優秀で、やる気があり、勉強熱心な介護福祉士が二人でも多く生まれることが求められます」と、介護福祉職の新しい価値の創造にも注力しています。

# さらに高吸収なタイプを新発売!!!

あてやすく肌にやさしい高機能パッド

## サルバ フレーヌケア ストロング 尿とりパッド Strong



### カンタンにあてられて しかもモレを防止

モラさずあてられる

#### カンタン装着つまみ

素早く確実にあてられてパッド装着ミスによるモレを防ぎます。

片手でらくらく

#### ワンタッチオープン

縦に折られた状態でパッケージに収納されているため、そのまま片手で開くことができます。



#### パッドの前後が一目でわかる デザインバックシート

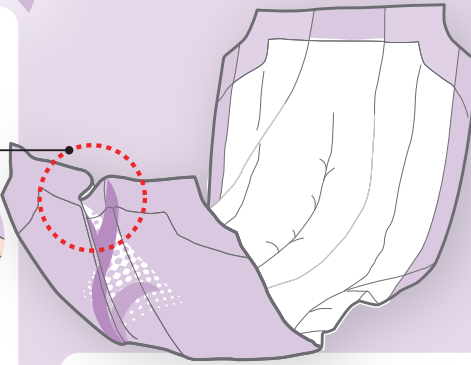
男性器を包み込む

#### 立体カップ構造

カンタン装着つまみによってできるスペースがパッド内部で動きがちな男性器をホールドしてモレを防止します。



デイロング ナイトロング スーパーロング



ムレを防止

#### 透湿性素材

バックシート(防水材)に透湿性の素材を使用することで、不快なムレを軽減します。

便をキャッチする

#### コートスペース

カンタン装着つまみによっておしりの部分にくぼみができます。便はその空間に入り込み、キープします。尿は吸収体内部で吸収されるため便と尿が混ざって流れ出る確率を低減します  
※コート(kot): 便

動きを妨げず肌に優しい

#### サイドフラップ包み込み形状

吸収体の外にあるヒダを不織布で包み込んでいるためヨレて肌に当たることがなく歩行時・着床時の違和感を軽減します。

### お肌にやさしい 吸収機能

素肌と同じ

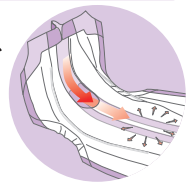
#### 弱酸性素材

吸収体環境を弱酸性に近づけることでカブレの原因の1つといわれるアルカリ性に傾いた尿からお肌を守ります。吸収体表面とパルプ層に使用しています。  
※全ての方にあてはまる訳ではありません。

尿が肌に触れにくい

#### 地下水路機能

尿道口が触れる部分の吸収体をくりぬくことで、排尿された瞬間に吸収体の奥へ入り込み地下水路のように内部で拡散します。そのため、尿が肌に触れにくく清潔な環境を保ちます。また、カンタン装着つまみによってできる“溝”が尿を吸収体内部へ引き込み、地下水路機能の効果を最大限に高める役割も果たします。



気になる臭いを抑える※

#### 吸収ポリマー

吸収ポリマーがしっかり尿を吸収すると共に排尿後の気になる臭いを抑えます。

※アンモニア臭に対して

## 編集部より

白十字の尿とりパッド“サルバフレーヌケア”は、尿を肌に触れにくくする地下水路機能と施設現場での使い勝手を考えた機能を備えた、高機能な尿とりパッドとして2005年に発売致しました。発売から10年を超えた現在、多くの施設・病院の現場でご愛顧いただいています。この10年の間にも介護環境は変化を続けており、白十字としても自立を目指すケアを支援する商品を発売するなど、常に新しい切り口をご提案しています。一方で、進む高齢化に伴って重度ユーザーやターミナルケアへの対応についても課題が見えてきました。そこで、これまで3アイテムをラインアップしてきた“サルバフレーヌケア”に、より吸収量の多いタイプを追加いたします。お肌の快適性と介護者の操作性といったこれまで評価をいただいている機能に、安心の吸収量を加えた商品です。ぜひ一度、サンプルをお試ください。

お問い合わせ  
お便りは

白十字株式会社  
「D-wing」編集部まで

〒171-8552  
東京都豊島区高田3-23-12  
TEL.03-3987-6974